

TVリポーターで活躍した 井波ゆき子さん

1979年から22年間続いた日本テレビ朝の名物番組「ルックルックこんにちは」。「突撃!隣の晩ごはん」が懐かしい。番組司会は沢田亜矢子、岸部シロー、松永三男と代わった。しかし、この人は22年間、一貫してリポーターとして活躍した。井波ゆき子さんだ。さて、今どうしているのか。



「ルックルックこんにちは」の名物リポーターだった 井波ゆき子さんはカウンセラーに



続けること22年!!

うつや精神疾患の患者や家族向けの心理カウンセリングはもちろん、中高年を対象にしたストレスケアやメンタルヘルスについての講義・講演を各地で行い専門誌に寄稿することも。また、力を入れているのが、「サクセスフル加齢抑制講座」だ。

「人間ってどうしても他人から良く見られたい生き物なんです。『ありのまま』を分秘させる方法を学びながら、加齢と前向きに付き合う生き方を考えてまいります」

「アナ雪」のよから、ワタシ、あのままに日々を過ごし、どこかそれを受け流す術を心得てたようです、フフ」

「テレビで顔出しの仕事はすっかりなくなり、それに従い、収入も減りました。でも、福島の子供たちに絵本の読み聞かせをするボランティアに参加したり、とても充実した毎日を送っています」

「華道(古流)の師範のおに上がり込んで、気分転換にお花をいじってるの」

「単々こうしてお友達の家にお花を持ってらるんですけど、東京のマンション暮らしじゃ床の間もないでしよ。で、同じ趣味のお友達とお話ししながら、造花でアレンジメントを作るのが、ワタシの手軽なストレス解消法なんです。人は誰でもストレスを抱える。自分に適した解消法を知る

「人生独身? いえいえ、別居結婚だったらしいかな、なんて夢はまだ捨ててません。だけど、結局、平日は仕事、休日は96歳の認知症の母の介護に追われちゃいますね」



「昔から友達に相談を持ちかけられるタイプで、話を聞くのも大好き。リポーターは天職だった」

「ワタシ、昔から友達に相談を持ちかけられるタイプで、話を聞くのも大好き。だからこそ、リポーターは天職だったんでしょう。で、『ルックルック』が終わった後、もっともと深くいろんな方の心の支援をしたいと思うようになり、改めてカウンセリングを学んだんです」

人生、去年大流行した「アナ雪」のように、
ありのままに自分のトシを否定せず、
そのまま受け止めれば、いいそうだった。

「『アナ雪』のよから、ワタシ、あのままに日々を過ごし、どこかそれを受け流す術を心得てたようです、フフ」

「『アナ雪』のよから、ワタシ、あのままに日々を過ごし、どこかそれを受け流す術を心得てたようです、フフ」